

Day

2

タイトル

5. アフリカにおける廃棄物管理に関する事例及び知見の共有  
(3) マプト市における処分場崩落事故緊急対応計画

発表者

モザンビーク国マプト市 廃棄物管理・墓地局 局長 Joao Agostinho Mucavele

要約

発表者は、Hulene Dumpsiteでおきた悲劇について、以下のように紹介した。  
ダンプサイトの容量が飽和に達し、2018年2月19日に膨大な量の廃棄物が崩落した。ダンプサイトの周辺には不法住居があり、かつ、新しい埋立地の建設の遅れなどもあって16人が死亡し、6人が負傷するという惨事となった。

マプト市は二次災害を避けるためにJICAに支援を要請した。被害を受けたすべての世帯が再定住した後、自治体は一時的な仮ダンプサイトを設けるための場所の特定を開始し、新埋立処分場建設予定地に住む違法住民の再定住事業に高い優先順位を付けた。一方、地方自治体は、ダンプサイト周辺の不法住居のリスクについて、公衆教育キャンペーンを集中的に実施した。

発表者は、崩壊から学んだ教訓として、処分場管理は、健康、教育などの他セクターと比べ、優先順位を下げるべきではなく、同等な基準で資源配分と投資が行われるべきであると強調した。さらに、ダンプサイトの近くに住む人々の命を危険にさらすのを避けるために、土地利用計画システムの改善の必要性や、ダンプサイトなどの危険地域における違法居住がリスクそのものであることから、法的に定められた境界を遵守することの重要性なども指摘した。さらに、JICAの専門家が推奨するように、ダンプサイトの構造は、安定した傾斜(最大傾斜角30度)などの特定の安全対策に準拠する必要があること、また将来の災害を避けるために、リスクに曝されているウェストピッカーの活動を組織する必要があることなどにも言及した。